

平成 30 年度

学生によるオレンジリボン運動

千葉女子専門学校実施報告書



実施主体 初谷ゼミ

実施内容 平成 30 年 8 月 21 日～平成 30 年 11 月 11 日

文化祭にて啓発活動(高校・専門学校)

①事前に取り組んだ内容

- ・児童虐待について、教員より事例を交えレクチャーを受ける。
- ・保育科の自分たちならではの啓蒙活動について考える。
- ・布製のオレンジリボンを中心に、オレンジの意味を伝え、一緒に考える活動にしたいと思い、折り紙や毛糸を利用したリボンを作成した。保育を学ぶ者として、来場した子どもの発達に応じ、楽しみ語りながら作れるよう、リボン折りや三つ編みを取り入れた。
- ・本校のスクールプラントが「風船かずら（ハートピー）」のため、オレンジリボンとハートに見える種（授業で栽培・種採りをしたもの）を一緒の袋に入れ、それぞれの説明をつけた。
- ・児童虐待の現状と課題、防止するための取り組みをポスターにした。
- ・布製リボン、折り紙リボン、三つ編みリボンを作成するにはゼミ生だけでは足りず、その様子を見た周囲の学生も協力をしてくれた。さらに、「オレンジは元気の出る色。子どもたちが製作に利用する」という内容で、児童相談所に一時保護されている高学齢児の作業にも取り入れてもらった。
(入所児の背景や課題が分からないため、児童虐待防止リボンとは明確に伝えられなかった。)

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・文化祭は、高校・本学を含め 3 回である。それ以外は、リボン制作やポスター作りを継続した。
- ・文化祭当日は、受付近くにブースを設け、ポスター展示とリボン・毛糸・折り紙リボンを置いた。
- ・来場者（学生家族、友人、地域の方他）に、児童虐待について話をし、好みのリボンを配布したり、興味のある方（地域の子どもや友人）には、折り紙や毛糸で一緒に作ってもらった。
- ・関心を持って聞いてくれた方に、メッセージを書いてもらった。→保育科学生らしいレイアウトで展示し、多くの人に見てもらえるようにした。
- ・ポスター発表を 10 分間実施した。来場者、学生、教員が参加し、質疑応答をおこなった。

③オレンジリボン運動を終えて・・・

- ・最初は、自分たち自身の虐待に対する認識が少なかったが、準備を通し、啓蒙活動の意義が感じられるようになった。
- ・制作通じ、仲間を巻き込むことができたことは、「今後親になる自分たち」にターゲットを当てることができ、成果につながったと思う。
- ・ハートピーの種と抱き合わせたことは、来場者の話題にもなり、良かった。
- ・ポスター発表は初めての体験であったが、緊張感と伝えなければいけない使命で頑張れた。
- ・保育科ならではの、ブース内でできる子ども向け計画を立てたが、同時進行している舞台に興味を取られ、少人数の参加であった。
- ・次年度は、今年度の啓蒙活動を継続しつつ、さらに子どもが理解できる視覚的教材を作りたいと思う。

